

●式三番叟

○朝日

○トウモロコシ畑ロング

21 その頃、南房絵、平磯のお花畑は、トウモロコシ畑となっていました。

○坂本さん収穫している

22 トウモロコシ収穫中の坂本さん。
毎年、この時期になると、お祭りのことが気にかかります。

○収穫の様子

坂本さん「この地区にも神社に奉納されている能面が一番尊いということで、お祭りの日には式三番叟をやらなければ催しものができないという歴史があるんですけども、今その式三番叟の役者に子供がいらないというのが現状なんです」

○夕方の諏訪神社境内

23 後継者不足を心配する坂本さんですが、今年は大丈夫、式三番叟しほさんばざうを演じる少年たちが見つけられました。

○建物へ入る人

24 諏訪神社では、お祭りの3週間前から準備が始まります。

○写本会のPAN

25 まずは、
役に選ばれた少年たちが
台詞を覚える場、写本会^{しゃほんかい}。

○書き写す手元

26 師匠が口述した台詞を
一生懸命に書き写して覚えます。

○大人と少年

27 このようにして
江戸時代から続く伝統芸能が連綿と
受け継がれてきたのです。

○夜の稽古ロング

28 写本会を終えると
今度は稽古です。

○お囃子の人々

29 舞台での稽古は、
夜の7時から9時までの2時間、
連日続きます。

○師匠と少年

○砂浜へ行く

30 そして、本番1週間前の朝、
少年たちは、
波打ち際の砂を取り、
身を清め、神社にお参りします。

○砂を取る少年たち

<p>○神社へ行く</p> <p>○神社で砂を盛る</p> <p>○玄関の飾りPD</p> <p>○玄関の砂盛り</p> <p>○のぼりを立てるUP</p> <p>○のぼり立て作業ロング</p> <p>○のぼりPU</p> <p>○舞台ロング</p> <p>○能面をつけるZU</p> <p>○少年・翁</p>	
<p>31 昔、身を清めた少年たちは、本番が終わるまで、家族とは別の食事をとっていたそうです。</p> <p>32 また、家の玄関前にも砂盛りをしておきます。</p> <p>33 本番の前日、地域の人たちが祭礼の準備を行います。</p> <p>33 かつて諏訪神社の祭礼は8月に行われていましたが、今は地域の祭礼が統一され7月に行われるようになりました。</p> <p>34 そして本番当日。式三番叟が始まりました。</p> <p>35 少年たちがつける能面は、御神体の化身<small>けしん</small>といわれています。</p>	

○少年・千代と尉

○少年・尉

○山車を引くロング

36

昔は、祭礼の時、
農村歌舞伎が奉納され、
その幕開けに式三番叟が
演じられていました。
農村歌舞伎は、
昭和32年を最後に行われなくな
りました。
しかし、式三番叟だけは、今日まで
絶えずに継承されてきました。
地域の人々が、
ずっと守り続けて行こうと、
努力してきたからです。

37

式三番叟が終わると、
山車が神社を出発、町内を巡ります。